

行政視察報告書

1. 委員会または会派等 議会運営委員会
2. 視察期間 平成26年1月28日から平成26年1月29日までの2日間
3. 視察 山口県周南市 山口県山陽小野田市
4. 視察項目 (山口県周南市) 議会運営及び議会活性化について (山口県山陽小野田市) 同上
5. 参加者 〔委員(議員)〕 境 公司、平山伸二、森 竜子、塩塚敏郎、平嶋慶二、 古庄和秀、橋積和雄、西山照清(議長) 〔同行〕 古庄委員の介添人 〔随員(議会事務局)〕 前田浩孝
6. 考察 別紙のとおり 以上のとおり、報告いたします。 平成26年2月5日 報告者 _____ 境 公 司 _____ 大牟田市議会議長 殿

6. 考察

(1) 山口県周南市

【市及び議会の概要】

周南市は、平成15年に徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町の2市2町が合併し誕生。市制10周年となる。人口は150,383人で戦後、発展した工業都市。予算規模は約1,404億円。

議会は、定数30人（うち女性3人）で最年少36歳、最年長71歳、平均年齢57.9歳。常任委員会は企画総務、教育福祉、環境建設の3委員会ですべて定数10人。委員の差し替え可能な予算決算委員会13人、議会だより編集委員会6人。

特別委員会として、徳山駅周辺整備対策特別委員会、公共施設再配置計画及び新庁舎建設に関する特別委員会を設置し、いずれも定員13人。公共施設再配置計画については執行部案を取り消し、現在、昭和29年に建設された新庁舎の建設も含めた研究・検討を行っている。

市の概要

H25. 4. 1 現在

	周南市	大牟田市
市政施行	平成15年4月21日	大正6年3月1日
人口	150,383人	123,638人
面積	656.32 km ²	81.55 km ²
職員数（現員数）	1,397人	1,068人

委員会の状況

	周南市	大牟田市
常任委員会	企画総務委員会 10人 教育福祉委員会 10人 環境建設委員会 10人 予算決算委員会 13人 議会だより編集委員会 6人	総務委員会 8人 市民教育厚生委員会 9人 都市環境経済委員会 9人
任期	1年	2年
特別委員会	徳山駅周辺整備対策特別委員会 13人 公共施設再配置計画及び新庁舎建設に関する特別委員会 13人	議会改革特別委員会 10人
当初予算	予算決算委員会で審査	2月定例会会期中に議員全員で構成する予算特別委員会を設置し付託

	周南市	大牟田市
補正予算	予算決算委員会で審査	所管常任委員会に付託
決 算	予算決算委員会で審査	9月定例会会期中に議員全員で構成する決算特別委員会を設置し付託

【予算・決算審査について】

分科会による特別委員会方式や予備審査による企画総務委員会付託方式などを経て、平成19年から委員差し替えを可能とした予算審査をスタート。すべての委員が審査に関わるよう各常任委員会の所管ごと及び討論・採決の前に委員の差し替えを可能とした。

大牟田市議会では、全議員で構成する予算・決算特別委員会を設置し審査しており、すべての議員に関わるシステムとなっている。



【決算審査における議会が行う行政評価の取り組みについて】

次年度予算への提言を目的として平成24年からスタート。3常任委員会及び予算決算委員会で評価を行う事業を2から3事業抽出。決算審査の結果、必要であれば審査報告に意見を付し、行政評価の結果から附帯決議。これを委員会提出議案として決議。6会派の全会一致でまとめた意見に加え、評価1：拡充する、評価2：現状維持、評価3：縮小する、評価4：廃止するの4段階評価を行っている。

これら行政評価に関する決議、審査報告書の意見に対する今後の対応、及び予算への対応についてはまだ出ておらず、周南市議会においてもその結果を受け、議会での質疑質問などを行い、追求していく予定。

大牟田市議会でも平成24年度決算から新たなシステムで審議。これまでの決算特別委員会の開催時期（10月中旬から11月初旬）が、次年度予算編成作業の終盤となっていたため、特別委員会が出された意見・要望が次年度予算へ十分に反映できる時期となっていなかったことから、決算審査を9月定例会中に前倒しした。また会派の意見・要望の集約を行い、議会として合意形成を図った重点的要望については、次年度予算案提出時までにはその対応について市当局に回答を求めている。



しかしながら周南市議会のように、議会として、各施策や各事務事業について拡充すべき・廃止すべきなどの行政評価までは行っておらず、検討すべき課題と再認識した。

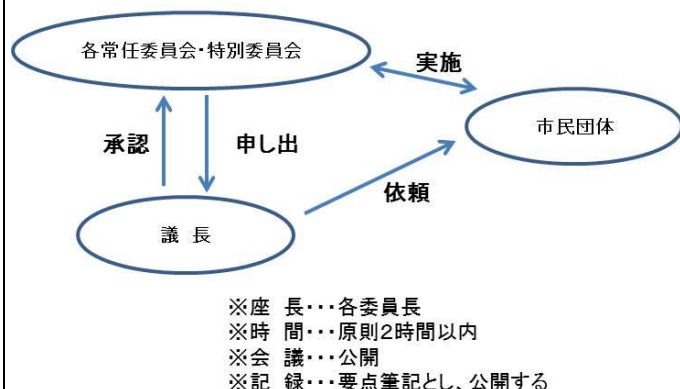
【委員会懇談会（ミニコン）について】

周南市議会では、住民と自由に意見交換できる場が必要であるとし、協議を重ねた結果、平成17年からミニコンを実施。市民と議会が懇談することにより自治意識の高揚を図り、議会においても市民が参画する機会を確保し、もって、市民の声を議会活動に生かすことを目的として、各常任委員会または特別委員会において議案等の審査、所管事務の調査を行うため必要と認める場合は、ミニコンを行うことができるという申し合わせを行った。

ミニコンは各委員長が座長となり懇談。対象は必ず団体で、個人とは行わない。原則2時間以内で公開とし、記録も要点筆記し公開することとしている。

ミニコンを市民の生の声を聞く場と位置付けていることから、その場で意見をまとめることは行わず、定例会での質問など議員活動にいかすこととしている。

ミニコンのしくみ



成果としては、医師会・歯科医師会と「小児医療の充実」について行い、休日急患システムが改善された例などがある。

課題としては、内容が陳情だけになってしまったテーマもあったことから、テーマ設定やどんな団体と行うかなどの精査が必要であるように思われた。

【考察】

周南市議会では「公開・対話」をキーワードとし、上記のような議会運営・改革に取り組んでおり、このほかにも議場におけるインターネット中継や、トピックスとしてまとめた常任委員会の審査状況をケーブルテレビで放映するなど、「公開」については充実が図られているが、「対話」については十分とは言えないとのことだった。

大牟田市議会においても、現在、改革を進めている予算・決算特別委員会のあり方についてや、年1回実施している議会報告会の実施方法・内容等について改善し、ステップアップしていく必要がある、周南市の取り組みも参考として、独自のシステムを確立していきたい。

(2) 山口県山陽小野田市

【市及び議会の概要】

人口 65,275 人 世帯数 28,465 世帯 総面積 132.99 平方キロメートル、予算規模は約 602 億 3 千万円。

平成 17 年 3 月 22 日に小野田市と山陽町が合併して誕生。明治 14 年には日本初の民間セメント会社である小野田セメント、大正 6 年には日本化薬厚狭工場が操業を開始して本地域の本格的な発展が始まり、江戸時代から始まった石炭産業とともに、古くから工業のまちとして知られる。

市議会は平成24年4月に議会基本条例を制定し、議会報告会、市民懇談会、自治会懇談会、また政策討論会など、開かれた議会運営に精力的に取り組んでいる。このような取り組みが評価され、早稲田大学研究所の議会改革度調査報告（2012改革度ランキング）で、調査に協力した1,371議会中64位と高評価を受けている。

議員定数は 22 人で平均年齢 61.2 歳。常任委員会は総務文教、民生福祉、産業建設の委員会が定数各 7 人。一般会計予算決算常任委員会が 9 人。特別委員会は広報広聴特別委員会があり、議会だより編集などの広報部会が 7 人、議会報告会や市民懇談会を担当する広聴部会が 8 人となっている。

過去に設置された特別委員会については、おいでませ山陽小野田企業誘致特別委員会（平成 23 年 7 月 1 日～）、広報広聴特別委員会（平成 23 年 10 月 31 日～）、議員定数に関する特別委員会（平成 24 年 10 月 18 日～平成 25 年 2 月 20 日）、議会機能向上特別委員会（平成 25 年 3 月 6 日～ 議会のさらなる機能向上を目指す中で、新たな仕組み、適正な議員定数や報酬などを考えることを目的に設置）。

市の概要

H25. 4. 1 現在

	山陽小野田市	大牟田市
市制施行	平成17年3月22日	大正6年3月1日
人口	65,275人	123,638人
面積	132.99km ²	81.55 km ²
職員数（現員数）	733人	1,068人

委員会の状況

	山陽小野田市	大牟田市
常任委員会	総務文教常任委員会 7人 民生福祉常任委員会 7人 産業建設常任委員会 7人 一般会計予算決算常任委員会 9人	総務委員会 8人 市民教育厚生委員会 9人 都市環境経済委員会 9人
	任期	2年
特別委員会	広報公聴特別委員会 15人	議会改革特別委員会 10人

	山陽小野田市	大牟田市
当初予算	<p>一般会計は新年度予算、補正予算とも一般会計予算決算常任委員会で審査する。</p> <p>特別会計は一般会計予算決算常任委員会を除く各常任委員会で審査する。</p>	<p>2月定例会会期中に議員全員で構成する予算特別委員会を設置し付託</p> <p>補正予算は、各常任委員会に分割付託</p>
決算	同上	<p>9月定例会会期中に議員全員で構成する決算特別委員会を設置し付託</p>

【議会報告会について】

議会基本条例に基づき、毎定例会後、計年4回、議会報告会を開催。市内の6中学校区で行い、スタート時からこれまで36会場で522人が参加した。

開催方法は全議員を3班に分け、2会場ずつを担当。議会代表あいさつ、各委員会15分程度の報告、質疑応答、終わりのあいさつという流れになっている。



報告内容については各委員会で所管する議案を4件程度に絞り、議案名、議案の概要、議会での主な論点、結果をまとめて報告している。主な論点は4行以内にまとめるよう申し合わせており、議員・会派間でさまざまな意見・考え方はあるが、客観的に議会での議論・議決を説明するよう心掛けている。

質疑応答は議員個人の考えを問うものは受け付けない。また議会への要望は議長が対応し、行政への要望は市長へ提出するようになっている。

このほか、市民懇談会は10人以上での申し込みがあった場合、開催。広報広聴特別委員会で受け付け、テーマによって派遣する議員を決めている。しかし、市民懇談会は対象が団体やグループ特有のものになってしまう一面があり、住民の代表機関である議会としては、さらに多様な声を聞くために自治会懇談会も開催している。

【決算審査について】

決算審査では、約 800 事業の中から、各常任委員会が 4～5 事業を抽出し、全体で 20～30 の事業について市当局から説明を受け審査。A：拡充、B：現状維持、C：見直し、D：廃止の 4 段階で評価し、付帯決議として意見を提出。次年度の予算へ反映するよう求めている。

しかし課題として、評価の基準が曖昧であること、付帯決議に対する当局側のフィードバックが不十分であることなどが挙げられていた。



【請願の取り扱いについて】

請願が提出された場合、提出者からの説明を受け、その後、必要であれば当局の関係部局からも話しを聞いたうえで議員間で自由討議。一旦持ち帰り、討論・採決は後日に設定し、その場で結論を出すようなことはしていない。

大牟田市議会でも検討すべき点ではないかと考える。

【考察】

平成 17 年に小野田市と山陽町が合併しており、議会運営にはそれぞれの市町のやり方・方法・歴史があり、どれが良いとか悪いとかは言えない。しかし、市政に対する市民の考え方が多様化する中で、さらに市民の声を市政に反映させるため、議会と市民が意見を交わす場づくりに精力的に取り組まれていた。

山陽小野田市議会は、「議会報告会」や「市民懇談会」とは別に、新たに「自治会懇談会」をスタートされ、さらなる議会活性化の充実に向けた取り組みを行っており、大牟田市議会にとっても市民の多様な意見や要望などを市政に反映させるための参考となる取り組みであると考えられる。

大牟田市議会の議会報告会は年 1 回の開催だが、市民から出された意見や要望を次年度予算へ反映できるようなシステムとして取り組んでいる。しかし、山陽小野田市議会同様、参加者数の確保に課題を感じている。同市議会では、参加を呼びかけるチラシやポスター、FMラジオでの告知などに取り組まれており、大牟田市議会としても参考としたい。

市民理解を得るとともに市民参加を促進するためには、地域の課題や提案の争点を市民にわかりやすく提示し、関係する情報や求められている情報を提供すること

が、市民の関心を高め、多くの市民参加につながるのではないかと感じた。